

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0894300011		
法人名	ウエルシア介護サービス株式会社		
事業所名	さとのこハウス境		
所在地	茨城県猿島郡境町38-3ウエルシア関東境町2階		
自己評価作成日	2019年9月19日	評価結果市町村受理日	2020年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0894300011-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0894300011-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2019年11月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームを施設という概念ではなく、自宅で過ごしているような感覚を持ってもらい、安心して落ち着いて生活してもらえるような環境作りを努めている。また、集団生活の中で、ご利用者一人ひとりのペースで過ごして頂き、決して物事を強制しないよう、本人の意思に沿いながら支援をしている。立地面でも、スーパーやドラッグストアなどが近くにあるので、買い物や散歩を行い、気分転換を図ってもらっている。また、日々の中で、自分で出来ること(洗濯物たたみ、掃除、食事の手伝いなど)は行なって頂き、生活を通しての機能訓練を行なっている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

商業施設の一角に立地しているという利点を活かし、利用者とスーパーに買い物に行き、店頭と並ぶ季節の食材等で季節を感じたり、散歩がてらドラッグストアをのぞくなど気分転換を図っている。日常生活の中から洗濯たたみ・掃除・食事の準備等を利用者の力量に応じて行い、やりがいと機能低下の防止に努めている。職員は離職率が低く、勤続年数が長いので、利用者と良好な信頼関係を築いており、家族に近い関係が出来ている事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「働くスタッフのために・ご利用者の幸せのために・地域と社会の貢献のために」という当社の運営理念を下に、日々業務に取り組んでいる。また、施設独自の方針を立て、それに向かって取り組んでいる。	法人の理念と事業所独自の3つの方針をたて、利用者一人一人の思いに添ったケアの提供に取り組んでいる。毎週月曜日の朝礼時に理念を唱和し再確認している。職員は目標を立てている。利用者のケアにあたっては、その方が望んでいることに気づけるように心がけ、家庭のような幸せな生活を提供しているという心強い職員の話が聞けた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアなど積極的に参加している。また、徘徊模擬訓練やサポーター養成講座、ラントモなどを開催し、地域住民との繋がりを持っている。	前回の評価を受け、徘徊模擬訓練・サポーター養成講座のステップ研修・ラントモ実行員主体で啓発運動を開催し、地域住民との交流が出来、事業所や認知症に関する理解が深まった。福祉・介護に関する相談があり、アドバイスをしたり、関係機関に繋げている。シルバー体操・コーラス・朗読・マジック・フラ・習字・折り紙のボランティア訪問があり、利用者は時には感激し涙を流す時もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームという認知症の知識を活かし、地域住民に向けての講義を開催している。また、買い物に来た方への介護に対する相談に乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行ない、境町役場や民生員、地域包括支援センター、家族などと情報交換を行なっている。	偶数月に開催し、2か月ごとに民生委員・家族(順番制)・行政・地域包括支援センター(県西県民センター)・事業所担当者のメンバーで行事予定・報告・運営報告やテーマを決めて話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしている。伝達研修・台風情報については家族の意識が高く、2Fにある事業所なので避難する方が心配だとの質問は、今後の課題となった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に境町グループホーム連絡会議を開催し、境町と他グループホームとの情報交換を行い、悩みや困っていることなど話し合っている。	運営推進会議の参加以外に、担当課と連絡を密にとり、協力関係を築いている。社協の自立支援員の支援を受けている利用者がある。グループホーム連絡会・ケアマネに参加し情報交換を行っている。中学生の体験学習を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3月に3回身体拘束廃止委員会を開催し、日々悩んでいることや検討したいことなどを話し合っている。また、定期的に身体拘束に関する勉強会も行っている。	身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月毎に事例をもとに検討や話し合いを行い、利用者の安心・安全に向けたケアに取り組んでいる事が確認できた。やむを得ず安全上拘束する場合の書類関係は揃えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備し、定期的に勉強会を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に本社で研修を行い、権利擁護について学んでいる。また、学んだ事を施設に持ち帰り、伝達研修を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、ご利用者本人、ご家族に利用契約書・重要事項説明書を説明し、納得した上で入所して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、気付いたことなど意見を頂いている。また、随時ご家族様と意見交換を行い、ご利用者・ご家族の要望などを聞き、ケアに活かしている。	意見の言い出しにくい利用者・家族に配慮し、意見箱の設置・第3者機関名・電話番号を明記している。広報誌を毎月郵送したり、面会時に利用者の様子を伝え、要望を聞いている。帰宅願望がある利用者に対し、家族に協力を得て、短時間、自宅に帰ることが出来た。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回営業所会議を開催し、職員間で情報交換を行なっている。また、管理者は、月に1回会議を行い、意見を交換している。	管理者は現場に入り、日々の気づきから要望や提案はその都度話し合っている。月1回の営業所会議を開催し、職員から意見を聞く機会(リフト浴・洗濯機・インフルエンザ対策→加湿器設置等)を設けている。管理者は月1回、他営業所管理者と意見交換している。外部研修受講後は報告書を作成し、回覧(押印で確認)や会議で報告し共有している。職員はなんでも管理者に話せるので、ストレスや不満は少ないとのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の考えややりたいこと、悩みや業務体制など、日々の中で意見を聞き、いつでも相談に乗れるような雰囲気作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で定期的な研修を行ったり、外部・内部研修に参加したり、営業所内で勉強会を行い、知識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回営業所の管理者が集まり、情報交換を行なっている。また、境町グループホーム連絡会議を定期的開催したり、イベントで実行委員を務め、施設同士の交流が図れている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者一人ひとりに担当者を付け、定期的なアセスメントを行ない、ご利用者の希望や考え、悩みなどを聞きながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の話し合いや契約の際に、現在の生活状況や要望などを聞き、なるべくそれに沿えるようサービスを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問や契約の際に、意見や要望などを伺い、サービス利用時の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員の関係ではなく、お互いフラットな関係で、信頼関係を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の意見や考え、希望などを聞き、なるべくそれに沿えるように家族へ働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者が親交を持っていた友人との交流や行っていた場所(買い物・食事)など、定期的に行ける様家族や友人に促している。また、職員と定期的にそれらの場所などに出掛けている。	電話や手紙の要望が出た場合は対応している。家族や知人がスーパーで買い物した帰りに面会に来たり、サークル仲間の訪問がある。家族と理髪店・外出・お墓参り・外食や友人と外出・ランチに出掛ける方や、年1度の家族旅行を楽しみにしている利用者がいる。外出支援の要望が出た時は職員が同行している。新聞や週刊誌を読んでいる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクや体操などに参加して頂き、他ご利用者との交流を図っている。また、食事作りやおやつ作りなど一緒に行い、助け合いながら過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所していた方の家族が買い物の後に寄って頂き、立ち話をしたり、自宅で使っていた物などを頂いたりと交流が図れている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりに担当者を付け、月に1回カンファレンスを行ったり、担当者会議でご利用者やご家族の意見を聞いたり、本人の意向に沿えるよう支援している。	担当職員が月1回カンファレンス開催、担当者会議で家族と利用者からの意見を聞き、本人の意向に添う支援を全職員で共有し提供している。趣味(縫物・植物の水やり・俳句・計算等)や家事・散歩・化粧品を買いに行く等からやりがいに繋げている。把握が困難な場合は家族に聞いたり、表情や様子から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に実調を行い、本人・家族の暮らし方や環境を把握し、出来る限り近い形で生活出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やバイタルチェック表、職員間の申し送りノートなどを活用し、日々の状態を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族が来所した際に生活に関する意見を聞き、月1回のカンファレンスで意見交換し、それらに基づきながら介護計画を作成している。	担当職員が主となり、毎月のカンファレンス・モニタリングを行って、ケアマネが介護計画を立案している。作成後は面会時に説明、面会の少ない家族には郵送し、同意の捺印をしてもらって返送してもらう。ケース記録の気づきや利用者の様子から、現況に即したプランを作成している。	ケアプラン作成にあたって、カンファレンス等で職員からの情報を収集した上で課題を抽出し、利用者が参加できる具体的な内容の目標を立てて支援していくことを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録などを参考にしながら、月1回のカンファレンスの中で、計画の実践や気づいたことなどを話し合い、見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の希望やご家族の状況を考慮しながら、出来るだけ希望に沿えるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアなどを積極的に受け入れしている。また、近隣の児童館への散歩や境町福祉大会(コンサート)などのイベントに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回掛かりつけ医に往診に来てもらい、問診や採血などを行なって頂き、日々の体調管理に努めている。体調不良時は、24時間いつでも来て貰える体制を取っている。	月1回の往診があり、問診・採血・バイタルチェックから体調管理(結果は申し送りノート・経過記録に記載)に努めている。特変時の対応も24時間可能である。連携外の病院には基本的に家族が付き添い、報告を受けて経過記録・申し送りノートに記載し共有している。常勤の看護師が勤務しているので、アドバイスを受けたり、かかりつけ医との連携はスムーズにとれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が勤務しているので、掛かりつけ医との連携が図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は定期的に面会に行き、現在の状態や退院の見込みなど、看護師との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期のご家族の意向や希望などを事前に聞き、なるべくそれに沿えるよう準備している。また、職員には、外部の研修などに参加してもらい、不安の無い様取り組んでいる。	終末期の意向や希望を事前に聞き、医療について事前調査書で意向を確認している。状態変化時には医師に説明してもらい、再確認を行って希望に添えるようにターミナルケアプランを作成し、全職員で取り組んでいる。夜間も管理者・看護師・医師との連携が取れる体制になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を定期的に行い、急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練の実施や水害などの災害に備えマニュアルを整備している。また、境町防災課や消防署など分からないことなどを相談している。	年2回の避難訓練を実施し(日中夜間想定)利用者が安全に避難できる方法を職員は身につけている。風水害マニュアルを作成、ハザードマップは周知している。備蓄品は一階の薬局に整備している。緊急持ち出し用品は見直しを検討するとの事。以前はベランダに避難すればはしご車で救助すると言われていたが、今年は可能であれば下まで避難させてほしいと消防署から言われたので、同敷地商業施設のスーパーやドラッグストアに協力依頼の相談の場を持ちたいとの事。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対して失礼の無いような言葉使いや態度を取り、決して職員が上から物を言うようなことは無い様取り組んでいる。	利用者を自分の親だと思い介護にあたっているが、なれ合いにならないように声掛けや対応に注意を払っている。個人情報保護に関する具体的内容は明記している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々ご利用者の希望・要望に出来る限り沿えるよう心掛けてサービスを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりのペースで過ごしてもらえよう、サービスを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1階ウエルシア薬局に買い物に行き、好きな化粧品を選んでもらったり、定期的に訪問理美容に来てもらい、好きな髪形などにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りやおやつ作りなどを一緒に行ってもらっている。また、定期的にイベント食を開催し楽しんでいる。	配食業者がたてた福祉メニューで、利用者は出来る範囲で食事づくり・下膳等を手伝っている。イベント食は利用者に希望を聞き、一緒に買い物に出かけており、すし屋や鰻を提供したことがある。利用者の状態に応じた食事形態で、愛着のある自分の茶碗・お椀・コップと趣のある食器に盛り付けて提供し、食欲がわくような工夫があった。食介が必要な利用者には、口に運ぶたびに、料理の説明を丁寧に行っていた。手作りおやつ(お好み焼き・蒸しパン・ホットケーキ・ゼリー等)と一緒に作る時やお誕生会・外食支援は、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人ひとりの食事の好みや食事形態、食事量を把握し、それぞれに合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行なえるかに関しては促しや確認を行い、介助が必要な方は、その状態を見ながら介助を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排尿間隔を把握しながら、失禁の無い様声掛けやトイレ誘導を行なっている。現在、オムツ1名、リハパン5名、布パンツ3名となっている。	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めている。おむつ(時間に対応)1名・リハパン5名・布パン3名であるが、職員の声掛けにより失禁は少なく、改善した利用者もいる。排便は薬に頼らないよう、運動・マッサージ・乳製品から自然排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤に頼らないよう、体を動かしたり、入浴の際にお腹をマッサージしたり、乳製品を摂取したりして排便を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本1日置きだが、入浴することが嫌いの方や拒否が強い方は、最低週2回入浴されている。また、定期的にイベント湯として、入浴剤などを使用して楽しんでいる。	基本1日置きだが、最低でも週2回の入浴支援を行っている。リフト浴機を設置したのでゆっくり湯船に浸かることが出来、利用者は喜んでいる。季節のゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤で入浴を楽しんでもらっている。皮膚感染予防として足ふきマットは個人毎に取り替えている。拒否があった場合はケースbyケースで対応。着替えの準備は利用者自身もしくは職員と一緒にやっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、適度に休息してもらいながら過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師も同行してもらい、服薬に関することを説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔行っていた趣味を活かしながら、日々のレクを行なっている。また、家事一緒に参加し、役割を持ってもらいながら生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者が行きたい場所など、なるべく行く様支援している。職員が行けない場所には、ご家族に連れて行ってもらうようお願いしている。	お花見(桜・紫陽花)・外食・買い物に出かけている。お天気・体調に合わせ近場を散歩したり、児童館にいくときもある。馴染みの衣料品店や日用品に出かけ、好みの商品を買うことを楽しみにしている。回転ずしの外食支援や土用丑の日の鰻を提供したときは、いつもより食欲が増すとの事。以前に比べて「外出は疲れる」という利用者が増えてきたので遠出は少なくなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は管理者が金庫で管理している。買い物の際や外出の際は、その都度金庫から持ち出し、記録している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡を取りたい場合は、随時取れるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月レクで作成した作品などを玄関やリビング、自分の居室などに飾っている。また、家族の写真等を自分の部屋に飾ったりしている。	ドラッグストアの2階にあり、玄関やリビングにレクで作成した作品を飾り、柔らかい雰囲気を作る工夫があった。ソファを設置したり、テーブルの位置を変えるなど、利用者が心地よく過ごせる共有空間を作っている。乾燥に配慮して加湿器を置き、インフルエンザ対策をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごしやすいう、テーブルの配置を変えたり、ソファを設置して一人になれるような環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具などを持ってきていただき、慣れた環境で過ごして頂いている。また、家族の写真等を飾り、安心して過ごしてもらえるような環境を作っている。	家庭で使っていたテーブル・椅子・テレビ等を動線と安全面に配慮して設置している。家族の写真・遺影・目覚まし時計・孫さんから送られたぬいぐるみ・カレンダーや趣味の書道道具・シクラメン・観葉植物を飾り、居心地の良い居室となっている。居室や居室内の洗面台はきれいで手入れが行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の出来ることを把握し、自分で出来ることは自分で行なうよう支援している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームさとのこハウス境

## 目標達成計画

作成日: 2020年1月22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	現在使用しているケアプランが、実際の現座で十分に活用出来ていない。	現場職員にも分かりやすく、実践しやすいケアプランを作成し、目標に対して達成しやすい内容にする。	ご利用者の担当を中心にしっかりとしたアセスメントを取り、毎月行なっているカンファレンスで職員同士意見交換を行い、計画作成者だけがケアプランを作成するのではなく、分かりやすく実践しやすい内容を職員全員で考えていく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。